

泌尿器科処置とトラブル対処法

日常臨床に潜むピットフォール

企画にあたって

「天災は忘れた頃にやってくる」ということわざがありますが、日々の臨床においてもトラブルは忘れた頃に起こることが多いと思われます。医療においてはアクシデント・インシデントを予防するためにさまざまな試みがなされています。しかしながら、トラブルは一定の確率で起こり、それに対応する策も必要です。

泌尿器科は外科系であり、日々の外来診療では多くの処置を求められています。ごくごく日常的に行われている尿道カテーテル留置においても、100%ノートラブルで行えるとは限りません。このように日常で慣れ親しんだ処置であっても上手くいかないことや、上級医でも「何でこんなトラブルが…」ということは、日常茶飯事ではないものの、しばしば遭遇することがあります。

本特集では、上級医が行う高度な処置ではなく日常的に行っている処置に関して、ピットフォールとそのレスキューについての解説を専門の先生方をお願いしています。若手の先生方においては、「こんなことが起こるんだ」とご留意いただき、上級医の先生方においては、「何でこんなことが起こったかな」と思った際のレスキュー書としてお役立ていただければと思います。

トラブルは決して起こってはならないと考えますが、ゼロというわけにはいきません。その際に確実なレスキューを行うことが大切です。本特集で泌尿器科処置に関する知識の引き出しを増やしていただき、トラブルなき泌尿器科診療を行えるよう祈っております。

日本医科大学医学部
泌尿器科学講座

近藤 幸尋